

# リーディングDXスクール事業【実践事例】

嘉手納町立嘉手納中学校（沖縄県）【指定校】

## <教育利用> ⑦「生成AIとは？（生徒向け導入授業）」

校種	小・中・高	校務・授業	ChatGPT、Bing、Bard テキスト生成、画像生成、動画生成	実践タイトル:生成AIとは？(導入授業)
----	-------	-------	---------------------------------------	----------------------

学年・教科	1年・総合	単元等	生成AIって何？(導入授業)
本時のねらい	生成AIの基本的理解深め、正しく使える姿勢を養う。		
使用するICT教材	Googleフォーム・Chat GPT(授業者のみ)		
授業の流れ			
講師:大城 智紀 先生 [沖縄県教育庁 県立学校教育課 教育DX推進室 指導主事 文部科学省 学校DX戦略アドバイザー]			
1. 講師の自己紹介 2. 情報活用能力について 3. BBCの紹介(信頼できる放送局) 4. スパゲッティの木 動画視聴 5. 動画についての意見交換(個→ペア・グループ) 6. 全体で動画についての意見交換		7. スマートウォッチの広告(信用に欠ける内容) 8. 全ての情報が正しいわけではないということに気づく 9. AIと生成AIの違いについて 10. ChatGPTを使ってキーワードから画像を生成 11. 上手に使いながら様々なことに対応する力を育てるの重要性を知る 12. 今日のまとめ	
授業のポイント			
講師はBBC放送がエイプリルフール用に制作した「スパゲッティの木」の映像を用いて、世の中に発信される情報が全て正しいわけではないことを生徒たちに教えた。多くの生徒はBBCという信頼できる放送局が取り扱った情報であることや、講師が紹介する情報であるため、疑いもせずに「スパゲッティは木からできる」と信じてしまった。この経験から、生徒たちは情報を鵜呑みにせず確かめる重要性を学んだ。また、生成AIに個人情報を入力してはいけない理由も、詐欺サイトの例を用いて理解した。講師は生徒からのキーワードを入力し、その内容に合った画像を生成AIで作成して見せた。この授業を通して、生徒たちは生成AIを活用した授業への期待を高めた。			

【パイロット的な取組の段階】  
① 生成AI自体を学ぶ段階

【実践概要】 左記の通り  
講師: 大城 智紀 先生  
[ 沖縄県教育庁 県立学校教育課 教育DX推進室 指導主事 文部科学省 学校DX戦略アドバイザー ]

【入力したプロンプト】  
・テキスト生成と画像生成の疑似体験を行った。  
・プロンプト入力は、講師が聞き取り、入力し、その様子を電子黒板上で確認しながら、内容に合わせて、入力するプロンプトを生徒から引き出しながら、講師が入力する形で行った。  
・画像生成では、プロンプトを入力し、繰り返し修正することで、イメージに近い画像が生成できること。  
・テキスト生成でも、同様に、プロンプトの入力を繰り返すことで、求めている内容に近づけることを体感した。



フェイク動画視聴後に情報の信憑性について考える。(個→グループ)  
ファクトチェックの重要性を学ぶ。

**実践のふり返し**  
【成果】生徒は、情報に対するファクトチェックの重要性を学んだ。また、なぜ、生成AIに個人情報を入力してはいけないかということも詐欺サイトの例から理解できた。授業を通して、生成AIへの興味関心が高まった。  
【課題】生徒が挑戦したい「画像生成」を授業で取り入れるためにも、保護者同意書の回収や画像生成機能をもつ生成AIの整備を整える必要がある。